

広報 

いいいたて

令和元年8月号
No.666

8



特集
畜産・酪農の復活へ



大いなる田舎
までいいいたて
いいいたて

www.vill.iitate.fukushima.jp

「ンモー」。遠くから聞こえる牛の声に、思わず耳を澄ませます。7月現在、村で牛を飼う畜産経営体は9軒。村に移住して畜産に取り組み、と準備をしている人もあり、少しずつですが、村の中に、牛の姿が戻って来ています。

震災前、村は、畜産の村として、「飯館牛」のブランド化に取り組み、多くの畜産農家が力を合わせていました。また、環境を生かして酪農に励み、品質のよい牛乳の生産に取り組み、畜産家もありました。

震災と原発事故とが起きたのは、一丸となった取り組みが実を結び始めた頃でした。村が計画的避難区域に指定された時、牛農家のほとんどが、手塩にかけてきた牛を手放さざるを得なくなり、手放さざるを得なくなり、市場に出したり、村外の農家に買い取ってもらったり。牛の行き先探しは容易でなく、心情的にも非常に辛い作業が続きました。

また、全村避難は長期化し、豊かな自然を生かして営まれていた畜産・酪農の再開には、さらに相当な時間がかかるだろうと、人々は落胆しました。

しかし、その中でも、再開を目指す試みは、早期から一歩また一歩と進められていました。村は、県など関係機関と連携して、村内での実証に積極的に取り組みました。また、パドックでの飼養実証に取り組みんだ山田長清さん（伊丹沢）、放牧の実証に取り組みんだ山田猛史さん（関根・松塚）、避難先で畜産を続け村内でいち早く再開した佐藤（一郎さん（大倉）、小林稔さん（前田・八和木）、高橋政行さん（二枚橋・須萱）など、牛農家自身の切れ目ない努力が、大きな力となりました。

そして、今年もー。

「ンモー」。夏空に響くのかな牛の声と共に、畜産・酪農のトピックをお届けします。



震災前「もりの駅まごころ」で販売され、学校給食でも大人気だった鮎川ゆきさん（小宮）の米粉パン。現在は、避難先だった山形県の大石田町に、店舗を構えています。今年から移動販売が始まり、村内でもまた味わえるようになりましたよ。



ふっくら、もちりの食事パン。上品な甘さのスイーツパン。具材が充実！惣菜パン。どれもオススメです。

米粉パンの店 あおいそら

山形県北村山郡大石田町
横山748
☎0237-53-6251

【村役場での販売】
村役場のほっとコーナー
毎月第4月曜日 午後0時から午後0時30分
※都合により変更になる場合もあります
※売り切れ御免ですので来場はお早めに

【いいたて村の道の駅までい館での販売】
ホール内で時々販売があります



CONTENTS 目次

- 3 特集 畜産・酪農の復活へ
- 8 飯館百景 学びの宝庫 小学校
- 10 教育委員会NEWS! 校名の選定について ほか
- 12 ほけんとふくし 検診結果説明会
- 13 ほけんとふくし 乳がん・子宮がん検診
- 14 ほけんとふくし 百歳賀寿 ほか
- 15 おしらせのページ 参議院議員選挙結果報告 ほか
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 そのころはっ ほか
- 20 おしらせのページ 7月のできごと ほか
- 21 入札結果
- 22 きてみて /ラオス通信。
- 23 こころのぼけっと / ひとのうさぎ
- 24 ホープス / 編集後記

村内のあちらこちらでヒマワリが咲いています。緑の山や夏の青空と鮮やかなコントラストを見せながら。高原のそよ風に吹かれて眺めるヒマワリ畑は最高です。表紙は13区営農組合が一面に咲かせたヒマワリ畑です。詳しくはP24で。



●表紙のおはなし●

んもす

リスタート（再出発）

RESTART

畜産・酪農の復活へ



振興公社のこと

フェリスラテが飯館分場として使用する牛舎は、飯館村振興公社の牛舎です。震災前、飯館牛の品質の向上に、職員が一丸となって励んでいた場所です。



平成20年撮影

飯館村振興公社
佐藤宣清 事務局長

震災前、飯館牛の繁殖・肥育に取り組む農家は数百軒にのぼっていました。昭和63年に設立された振興公社では、この畜産技術センターで肥育の研究を行い、得られたデータをJAの和牛改良組合と共有するなど、畜産農家にフィードバックをして、飯館牛の資質向上に努めていました。また、さらに、受精卵移植にも取り組み、繁殖牛の品種を改良。血統のよい牛を残しながら、飯館牛のレベルを上げていきました。

飯館牛のブランド力が認知されると同時に血統のよさも評価されるようになり、子牛の値が上がり、各地から大勢のバイヤーが訪れるようになりました。方向性が間違っていなかったと、手応えを感じていた矢先の、震災だったのです。

現在は、そうした技術研究の事業を休止していますので、牛舎を活用してもらええることは、互いによいことだと考えています。これからも、畜産業の再生に取り組む農家を、村と一緒に頑張って応援していきたいと思ひます。



(上)働きやすさや作業の効率化も大事にしているフェリスラテ。若手の育成にも力を入れます。
(下)初めての搬入も手際よく作業が進みました。



フェリスラテで生産される堆肥は、これまで村で使われて来ましたが、今後は分場の堆肥も活用されます。

「ここで子牛の育成ができることになり、親身に相談に乗ってくれた村に感謝しています」。開口一番、田中さんは、そう言って笑顔を見せました。代表を務めるフェリスラテは、福島市土船の牧場で、500頭を越える乳牛を飼養し、生乳の出荷を行っています。田中さんは、乳牛の自社育成を行いたいと適地を探していて、飯館村振興公社の牛舎を育成牧場として借りることになりました。

子牛の価格が高騰する中、自分の牧場で繁殖を行う酪農家が増加していますが、育成にはさらにスペースが必要になることなどから、育成期間中は、他の牧場に子牛を預けている牧場が多いそうです。フェリスラテも、自社で繁殖させた子牛を北海道の育成牧場に預けていましたが、何とそちらも満杯の状態。田中さんは、本格的に、自社育成を目指すことにしました。「自分達で、繁殖や育成を行えば、子牛を預ける経費を削減できますし、牛の健康管理に目を配り、付加価値を高めて育て上げることが出来ます」。今後は、土船の牧場で生まれた子牛を、8か月程度から飯館分場で育成。分娩前には本場に戻し、乳牛として活躍してもらおう。本場で生まれた子牛は、離乳後に育成牧場に来て育つ、という循環が生まれます。

田中さんは、避難後に携わった復興牧場の経験を生かして、牧場経営の向上も目指しています。「よい牛乳をつくることも、もちろん一番に大切ですが、働きやすい環境の整備や作業の効率化・合理化も目指しています。育成牧場の運用もその流れの一環で、よい経営につなげていきたい。がんばります」。

7月16日、飯館分場に、22頭の子牛が運ばれて来ました。「年内には100頭ぐらいまで増やしたいと思っています。村に戻る仕事の先がけとなっていければうれしいですね」。



RESTART

畜産・酪農の復活へ

育成牧場の誕生

田中一正さん（長泥）

「フェリス」は幸福を表すスペイン語
「ラテ」はイタリア語で牛乳のこと

「ここで子牛の育成ができることになり、親身に相談に乗ってくれた村に感謝しています」。開口一番、田中さんは、そう言って笑顔を見せました。代表を務めるフェリスラテは、福島市土船の牧場で、500頭を越える乳牛を飼養し、生乳の出荷を行っています。田中さんは、乳牛の自社育成を行いたいと適地を探していて、飯館村振興公社の牛舎を育成牧場として借りることになりました。

子牛の価格が高騰する中、自分の牧場で繁殖を行う酪農家が増加していますが、育成にはさらにスペースが必要になることなどから、育成期間中は、他の牧場に子牛を預けている牧場が多いそうです。フェリスラテも、自社で繁殖させた子牛を北海道の育成牧場に預けていましたが、何とそちらも満杯の状態。田中さんは、本格的に、自社育成を目指すことにしました。「自分達で、繁殖や育成を行えば、子牛を預ける経費を削減できますし、牛の健康管理に目を配り、付加価値を高めて育て上げることが出来ます」。今後は、土船の牧場で生まれた子牛を、8か月程度から飯館分場で育成。分娩前には本場に戻し、乳牛として活躍

田中一正さん

株式会社フェリスラテ代表取締役社長。平成13年に村へ移住し、家族で酪農に取り組んでいました。避難後、被災休止酪農家が共同経営する復興牧場の運営に携わり、平成27年、5人の仲間と設立した株式会社フェリスラテの代表に就任。以降、福島市土船の牧場で乳牛を飼育し、生乳の出荷を行っています。同社では現在23人が働いています。

飯樋町の牛舎と、小宮の牛舎に、合わせて約180頭の母牛と子牛がいます。佐藤隆男さんは、昨年から、村内の牛舎で畜産を再開し、9か月から10か月まで育てた子牛を、本宮市場に出荷しています。震災前から共に畜産を行っていた次男の豊洋さんも、自分の牛を買い付け、畜産家として独立しました。互いに協力しながら、同じ牛舎で仕事をしています。「息子がいなかったら、できないよ。牛のお産は夜の仕事になるし、俺も体力的に大変になってきたからね」と隆男さん。「息子達が頼りになるんだ」。

豊洋さんにも、その思いは伝わっています。「自分の生き残る道として、やっていくことにした」。パトンを未来に引き継ぎたいと考えています。現在は牧草も栽培しています。検査で安全を確認して食べさせています。「一番草は、やわらかくて、よかったよ」と、隆男さんの妻のたつよさん。隆男さんの頑張りのおかげで、一番近くで支えてきました。「(隆男さんは)寝ても覚めても仕事の話。本当に仕事が好きなんだなあ」と。そう笑うたつよさんの明るさが、家族のパワーの源かも知れません。

RESTART

畜産・酪農の復活へ

挑戦を支え合う
佐藤隆男さん (飯樋町)
佐藤豊洋さん



左から、佐藤豊洋さん、たつよさん、隆男さん。小宮の牛舎にて

大変な苦勞を越えて、たどり着いたそれぞれのRESTART。前を向く皆さんの素敵なお笑顔と、未来を目指す足跡に、勇気をもらいますね。畜産の村の新しい物語が再び動き出しています。



RESTART

畜産・酪農の復活へ

新しい牛舎で
山田豊さん (関根・松塚)

明るい牛舎で、引越して来たばかりの牛達が、のんびりと過ごしていました。村内に整備中の3棟の牛舎。完成した一部に、この7月、牛が入りました。山田豊さんの牛舎です。「分娩を迎える牛が多いので、少しずつ運ぶようになります」。震災後、妻のあゆみさん、幼い子ども達との避難が続く中で、豊さんは、京都市の精肉店に勤務しました。避難の中でも牛の仕事につながる「おいしい肉」を学ぶためでした。「避難当時は、村での再開は、ほぼ難しいと思っていました。けれど、親父が避難先で牛を飼いつづけてくれたこと、加えて子牛が高値だったこともあって、再開することができました」と振り返ります。父親の猛史さんは、牛を連れて中島村に避難。いずれは故郷の田畑で放牧をしたいと、飯野町に借りた牛舎に移り、村へも準備に通信しました。「親父は明るくて、こういう生き方をしたい、こういう村にしたいというのをいつも持っている。自分もそうありたいと思っています」。新しい牛舎の建設については、「村のサポートがあつて選択肢が広がった」と話します。「村や地域に、何らかの形で返していきたい」。



山田猛史さん

猛史さんは実証が終わった牧野での放牧を継続中

村内には他にも借り受けた牛舎があり、飯野町の牛舎もあります。猛史さんをはじめ、家族と力を合わせる毎日です。「水や牧草の放射線量を測り、安全を確認しながら頭数を増やしていく計画です。まだ試験段階ですが、肥育の再開にも取り組んでいきます」。これまでの経験すべてを糧にして、豊さんの挑戦が続きます。

飯舘 百景

学びの宝庫 小学校

夏だより。この夏の多彩な学びを、ちよつとのぞいてみましょう。

左の写真は、シドニーオリンピックに出場した元水泳選手・萩原智子さん(左端)による「水の授業」。下の右端の写真は、森と健康の専門家・小野なぎささん(右から2人目)による「森の授業」です。森と水の大切さやつながりやを分かりやすく学ぶことができる「水ケーション」・森と水の授業」で、3～6年生が、いきいきと学びました。村と協定を結ぶ東邦銀行の協力による特

別授業でした。

右から2番目の写真は、学校めぐりの一場面。児童は、草野・飯舘・白石、3つの本校舎を縦割り班で探検。家族や先輩の思い出にも触れ、学校がつなぐ人の思いを体感してきたそうです。そして3番目の写真は、「太鼓体験」です。全校児童が、中学生と共に、「はなづか太鼓」を体験。全9学年の縦割り班で、さまざまな種類の太鼓に触れ、演奏を楽しみました。この授業は「ふるさと学習」の二環で、村民を講師に行われました。

一番左は、1・2年生の「花育」の授業。豊かな情操を育むねらいの授業です。名前をつけて育てたコチョウランをリボンで飾り、大切な人に贈る準備を整えました。花を通じた支援をいただき、行われた活動です。多くの人、モノ、コトに触れる豊かな学び。子ども達はのびのびと活動を楽しんでいました。

木の香りがいっぱいの校舎で学べて、素敵ですね。「村の木」「村の花」「村の鳥」を聞いたら、すぐに答えてくれましたが、こんなにスラスラ答えが出てくる学校は、全国を歩いていても、初めてでした。

森の授業

小野なぎささん

水の授業

萩原智子さん

あたり前のように思えていても、決してあたり前ではない「水」の存在。水への感謝を共有したくて「水ケーション」を行っています。福島での活動を続けているのは、本当にただ応援がしたいとから。子ども達の頑張りや、みんなの力になりますね。飯舘の子ども達は、素直で明るくて、とても楽しい時間を過ごしました。



義務教育学校開校に向けた 住民説明会を開催しました

7月13日、交流センター「ふれ愛館」において、「義務教育学校開校に関する住民説明会」を開催しました。会では、村長、教育長と教育委員会職員が、これまでの経過や、義務教育学校の特徴とメリット等を説明しました。

出席者からは、新しい学校に対する期待や、新しい学校で取り組むべき事項（コミュニケーション能力を高める方策、転出した児童・生徒との交流事業の実施等）について、意見が述べられました。

住民説明会は、10月と来年2月にも開催する予定で、開校に向けた進捗状況や、新しい学校の教育内容等について説明していきたいと考えておりますので、多くの皆様のご出席をお願いいたします。

閉校記念誌の制作に 皆様のご協力を!

4つの小中学校が閉校となるのに伴い、閉校記念誌を制作します。内容構成については、専門部会が検討を進めています。

閉校記念誌の制作にあたって、4つの小中学校に関する資料や思い出を、卒業生の皆様、村民の皆様から募ります。

自身や家族が在校中の思い出や、学校への思いなどを、ぜひお寄せください。写真資料などのご提供も、同時に募集します。

村民の皆さんから寄稿いただく応募用紙を広報紙に同封します。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

問 教育委員会

☎ 0244-42-1631

義務教育学校の 校名候補を 選定しました



いいたて希望の里学園

来年4月に開校予定の義務教育学校の校名を募集したところ、133件の応募があり、7月17日に開催した第2回義務教育学校開校準備委員会で協議した結果、新しい学校の校名候補に「いいたて希望の里学園」を選定しました。

次のような考え方で選定されました

- 飯舘村に生まれ育ったことに誇りを持ってもらいたいという願いを込め、応募校名中最も多かった「いいたて」を校名につける。
- 4つの学校が一つになるので、新しい学校をイメージでき、応募校名中最も多かった「学園」を校名の最後につける。
- 「いいたて」と「学園」に、新しい学校に込めた想いが伝わるよう、ふさわしい言葉を入れることとし、震災からの真の復興を望む村民の想いとして、応募があった中から「希望」を採用する。また、ふるさと飯舘村の学校であり、おおらかで優しい子どもになってほしいという願いを込めて「希望の里」をつける。

校名候補は、村教育委員会の会議で承認後、村議会9月定例会で正式な校名として決定される予定です。

校名募集にご協力いただいた皆様に改めて感謝を申し上げます。応募にあたり、校名に併せて考案理由や校名に寄せる思いも記入いただきましたが、それぞれに新しい学校に期待する強い思いを感じました。皆様の思いを新しい学校づくりに生かしていきたいと思っております。

準備委員会では、新しい学校の校章と校歌の制定方法についても協議し、児童生徒及び教職員で校章のデザインや校歌に寄せる思いを話し合うこと、準備委員会で校章デザインを決定後、専門家に補整をお願いすること、校歌の作詞を、専門家等をお願いすることが決定されました。

義務教育学校の 開校に向けて(2)

広報いいたて7月号「教育委員会NEWS」でお伝えした「義務教育学校の開校に向けて」の続編です。

●義務教育学校のメリット②

義務教育学校の最大の特色(メリット)は、15歳の卒業時の望ましい姿を思い描き、教育活動を進められるところにあります。また、9年間を見通し、一貫性をもたせた体系的な教育活動が行えるため、次のような特色ある学校をつくるのが可能になると言われています。

- ✿ 地域の歴史・文化などの特性を生かした教育活動を盛り込んだり、英語の授業を前倒しするなど、特色ある教育を行うことができる。
- ✿ 「中一ギャップ」などの課題を解消するため、9年間を見通した教育計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じた教育活動を行うことができる。
- ✿ 小中学校の教職員が日常的に情報交換を行うことにより、「不登校」「生活指導上の問題」などの課題に組織的に対応することができる。
- ✿ 9年間の成長を全ての先生で見守るので、子どもの安心感が更に高まる。
- ✿ 授業や学校行事に限らず、登校時や休み時間での異年齢の交流活動が盛んになり、上の学年の子どもたちのリーダー性が育つ。

保護者にとって
もこんなメリッ
トがあると言わ
れています

- PTA組織を工夫することによって保護者間のコミュニケーションが増え、中学校入学時の保護者の不安の解消につながる。
- 小学校1年から中学校3年まで、子どもがどのように成長していくのかの見通しが持てる。
- 中学校に入学しても、これまで教えてもらった先生が同じ学校にいることから、安心して相談等ができる。

乳がん検診・子宮がん検診のご案内

～検診を受けて安心を～

乳がん、子宮頸がんは他のがんと違い、若い世代に多いがんです。いずれも早期発見、早期治療で治る可能性の高いがんと言われておりますが、検診を受けられる方が少なく、若い世代の女性のがん死亡の上位を占めます。村の平成30年度の検診受診率は**子宮がん検診12.7%、乳がん検診14.8%**と、決して高いとは言えない状況です。早期発見のためには、定期的ながん検診を受けることをお勧めします。

令和元年度の乳がん検診、子宮がん検診は下記のとおりです。

乳がん、子宮がん検診実施期間

◎医療機関で受診の場合

地区	乳がん検診	子宮がん検診
福島市内	令和元年7月1日～12月28日	令和元年7月1日～9月30日
相双方部	令和元年9月2日～10月31日	令和元年9月2日～10月31日
伊達方部	令和元年7月1日～9月30日	令和元年8月1日～10月31日

◎集団バス検診…子宮がん検診のみ村内で12月に予定（詳細については後日お知らせ）

検診対象者と内容

検査名	内容・方法	対象者
乳がん	マンモグラフィなど	40歳以上の女性
子宮がん（頸部）	内診・頸部検査など	20歳以上の女性

受診に必要なもの

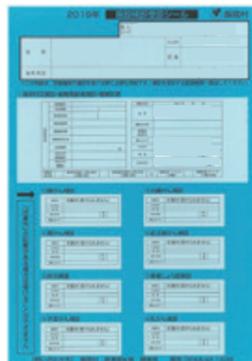
- ①施設検診受診シール（4月下旬に送付した青色の用紙）▶
- ②保険証
- ③その他（医療機関の必要とするもの）

※紛失された方は下記までお問い合わせください。

検診受診費用

検診に要する自己負担金はありません。

問 健康福祉課健康係（☎024-42-1638）



健康福祉課健康係では、ご希望に応じて、電話相談、訪問相談も行っております。お問い合わせは、☎0244（42）1637まで

7月8日・12日の2日間、交流センター「ふれ愛館」で、健診結果説明会が行われました。本説明会は、参加者の皆さんが、「健診結果表を通して自身の身体の状態がわかる」ことを目的に、当日は、参加者がそれぞれの健診結果を見ながら、検査項目と検査結果の意味について、一つひとつ確認していきまし。また、健康づくりの基礎となる食事についても考える時間を設け、参加者同士が日々の食生活を振り返り合いました。今年度は「食を考える会」の皆さまにご協力をいただき、おいしい減塩食の「カボチャのミルクそぼろ煮」を提供していただきました。

自分自身の身体の状態を知って
つくる健康、守ろう健康！
健診結果説明会！

カボチャのミルクそぼろ煮

塩分0.7g



材料（4人分）

- カボチャ…320g（1/4個）
- 鶏モモひき肉…95g
- 牛乳…290ml
- めんつゆ（3倍濃縮）…24g（小さじ4）

作り方

- 1.カボチャは種とわたを取り、2cm角に切る。
- 2.フライパンに牛乳、めんつゆ、鶏モモひき肉を入れて混ぜる。
- 3.ひき肉がほぐれたら、カボチャを加え、クッキングシートで落しぶたをして中火にかける。
- 4.煮立ったら火を弱め、カボチャを柔らかくなるまで煮る。

減塩のすゝめ

減塩食はおいしくない！なんてイメージはありませんか？確かに、単に食塩量を減らしたただけのものでは、あまりおいしくないかもしれません。しかし、うま味や酸味、牛乳を活用することで、食塩量をただ減らしたのものよりも、おいしく食べることができます。今回の「カボチャのミルクそぼろ煮」は、今流行りの「乳和食」と呼ばれる料理。水の代わりに牛乳を使うことで、味にコク出て、減塩食とは思えないおいしさです。ぜひご家庭でも一度お試しください！

参議院議員選挙 村内の選挙結果をお知らせします

第25回参議院議員通常選挙は7月21日に投開票が行われ、村の投票率は期日前投票と当日投票を合わせ、46.92%でした。前回平成28年参院選の投票率49.26%と比べ、2.34ポイント下回りました。

村内投票率	当日有権者数	4,851人
	投票者数	2,276人
	投票率	男 48.81%
		女 44.99%
	全体	46.92%

村内開票結果	小選挙区(届出順)	
	森まさこ	1,427票
	水野さちこ	766票
	田山雅仁	57票

比例代表(届出順)	
1. 日本共産党	149,111票
2. 自由民主党	926,018票
3. オリーブの木	8票
4. 社会民主党	44票
5. 公明党	335,185票
6. 国民民主党	250票
7. 日本維新の会	61票
8. 幸福実現党	2票
9. 立憲民主党	252,017票
10. 労働の解放をめざす労働者党	4票
11. NHKから国民を守る党	31票
12. 安楽死制度を考える会	8票
13. れいわ新選組	64,666票



功績に感謝 赤十字表彰

7月18日、日本赤十字社福島県支部創立130周年を記念した福島県赤十字大会が福島市で開かれました。大会には、日赤名誉副総裁の寛仁親王妃信子殿下が出席し、赤十字活動に関わる関係者に向けて、「赤十字に寄せられる期待は高まっている。互いに手をとりあっていきましょう」とお言葉を述べられました。

同日は、赤十字事業の伸展に功績のあった方や団体への表彰が行われ、村からは、4人の方と、1団体が受章しました。

《社資功労》

・金色有功章

- 濱田 幸政さん (草野)
- 渡部 功さん (草野)
- 佐藤 眞弘さん (二枚橋・須萱)

・銀色有功章

- 高野 孝一さん (前田・八和木)

《業務功労》

・金色有功章(奉仕団)

- 飯館アマチュア無線赤十字奉仕団



百歳賀寿

高橋嘉子さん(伊丹沢)



6月26日、高橋嘉子さん(伊丹沢)が百歳の誕生日を迎えました。同日、高橋さんが入所する特別養護老人ホーム「いいたてホーム」で賀寿が行われ、県や村、村社会福祉協議会が、高橋さんに、記念品などを手渡しました。

家族を代表し、長男の一さんがあいさつし、「戦争や冷害など、厳しい環境の中で子育てをしてくれた母に感謝している。母の百歳を盛大に祝っていただき、とてもうれしく思います」と感謝を述べました。

ホーム職員
手作りのケーキ
でお祝いです



高橋嘉子さんプロフィール

大正8年6月26日生まれ。子どもが7人、孫が13人、ひ孫が8人います。本を読むことが好きで、「いいたてホーム」入所後は、カラオケの歌詞本も読んでいます。

介護予防教室を開催

お口の健康と栄養教室

6月28日、交流センター「ふれ愛館」で、介護予防教室「お口の健康と栄養教室」の2回目の講座が開かれました。歯と歯ぐきの状態が悪くなると、食事が取りにくくなり、全身の栄養状態にも問題が生じます。この日は、口腔内の健康の大切さを、栄養面からも学び、実際に旬の素材を調理して、食べ方、飲み方についても学習しました。



キッチンスタジオで調理実習。食事をおいしく味わうためにも、お口の健康を大切に！

認知症を理解しよう

中学校でサポーター養成講座

7月10日、飯館村地域包括支援センターが、飯館中学校で、「認知症サポーター養成講座」を開きました。受講した生徒の皆さんは、講座を通して、認知症の原因や症状、さらには患者本人のつらさや不安感についても理解を深め、「認知症の人の気持ちを考えて行動したい」「やさしく関わりたい」と受講の感想を記していました。



センター職員の寸劇をヒントに、接し方の工夫について、生徒も意見を出し合いました

「自分史」づくりの出発式 学生による取材がスタート



学生達はグループに分かれて取材を開始。写真は佐々木千栄子さん（佐須）の取材の様子です。

村民20人の自分史を本にまとめる「自分史づくり」の聞き取り取材が始まりました。この事業の実施は、昨年に続く2回目で、公募した村民への取材は、村と協力協定を結ぶ福島大学の学生が行います。

7月16日には、村役場に隣接するビレッジハウスで出発式が行われ、式の後には、菅野村長が講演。集まった学生に、村の現状や事業の意義などを伝えました。その後、学生達は、村内や避難先の村民のもとを訪れて、早速取材を開始。1月頃の自分史集発行を目指して、事業が本格的にスタートしました。

スポーツ公園に絆の植樹 名古屋城北ライオンズクラブ



名古屋城北ライオンズクラブ、飯館ライオンズクラブの役員らが出席。寄贈の式を行いました

名古屋城北ライオンズクラブから贈られたヤブツバキの木が、「いいいてスポーツ公園」に植樹されました。

同クラブは、震災の年、飯館ライオンズクラブを訪ねて義援金を手渡し激励。飯館ライオンズクラブも、節目の年の祝賀に名古屋を訪れるなどして、交流を続けてきました。約4mのヤブツバキは、交流の記念にと寄贈されたもので、6月27日に行われた植樹式では、「絆記念樹」と記した記念杭（くい）の除幕も行われました。

ふるさとを学ぶ中学生が 道の駅で村民にインタビュー



道の駅に出品している漬物や凍み餅を見せて説明する高橋トク子さん（左手前）と真剣に聞く中学生

7月18日、飯館中学校の生徒が、「いいいて道の駅までい館」を訪れ、村民が生産した野菜や花などを調べ、出品している村民へのインタビュー取材も行いました。中学生が話を聞いたのは、さまざまな加工食品を道の駅に出品している高橋トク子さん（深谷）と、村に移住をして花の生産に取り組んでいる伊集院博さん（大久保・外内）です。中学生は、一生懸命メモを取りながら、2人の話に耳を傾けました。また、村の復興対策課農政第一係の職員からも話を聞き、農業再生の現状について学んでいました。

村が学びのフィールドに 福島大学食農学類が来村



村内のさまざまな地域を視察しました。視察の後半、比叡地区でバスを降り質疑応答する学生と職員

7月4日、福島大学食農学類の学生・教員らが、村内の見学を行いました。同大学では今年度に食農学類が開設され、食品科学・農業生産・生産環境・農業経営などを学ぶ学生が、各地でフィールドワークを行います。そのフィールドの一つとなっている飯館村へ、22人の1年生がバスで訪れました。現地や主要施設などの視察には、復興対策課農政第一係から職員が同行し、村の農業の状況を説明しました。村は同学類と連携協力の協定を結んでいて、学びの成果は村の農林業の振興にも役立てられます。

アクアエクササイズ教室で 水中運動の効果と楽しさを実感



上半身の動きをつけたウォーキングや、音楽をかけたリズムカルな運動などを、楽しく体験しました

7月21日、学校エリアの屋内プールで、「アクアエクササイズ教室」が開かれました。この教室は、生涯学習課の主催で、スポーツクラブなどで指導を行っている遠藤恵さんを講師に実施しました。アクアエクササイズとは、水中運動のことで、心肺機能を高めながら筋力をつけることができると注目されています。また、泳ぎに自信がなくても、膝や腰に痛みがあっても効果的な全身運動ができるそうです。参加した人は、「陸上ではできない動きができていいですね」「今日をきっかけに続けたい」と話していました。

星に願いを… こども園で「たなばたかい」



楽しい「たなばたかい」のフィナーレには、円を作って仲良く「ドラえもん音頭」を踊りました

7月5日、「までのりの里のこども園」で、「たなばたかい」が開かれました。園児は、かわいらしい浴衣姿・甚平姿に、星の飾りを身に着けて、ホールに集合。ホールには、「しょうぼうしになりたい」「アンパンマンになりたい」など、願い事を書いた短冊が揺れる、笹飾りが飾られていました。園児は、七夕の由来となっている物語を、職員が演じるパネルシアターで楽しんだり、七夕の歌を歌ったりして、和やかにひとときを過ごしました。みんなの願い事が、叶うといいですね。

その
ところはっ
教えてください
そのワケを
#3



今年、創業40周年を迎えた長谷川電気工事では、節目を記念し、村内で美化活動を行いました。4月20日、全社員が、村役場を起点に出発。宮内地区の会社の前を通り、なんと伊達市との村境の先まで、道路の清掃を行いました。

この活動を発案した前社長で父親の長喜さんから、拓也さんが社長職を継いだのは、6月のことです。全村避難となり、福島市にも事務所を構えて、8年。「あつという間ですね。村の復興事業にも関わらせていただいて、仕事の上ではいい勉強ができた時間でもあったと

思っています」。会社を継いで間もない拓也さんは、ある人から贈られた「不易流行」という言葉を大事にしています。「40年間培ってきたものを基礎として、技術レベルをアップし、技術革新に対応しながら、安心・安全な仕事をしていきたいと思えます」。また、拓也さんが副部長を務める村の商工会青年部は、「飛び交う意見が発展的で、村のことをポジティブに考えられるようになる」場所だそうです。家族、社員、そして仲間と共に。「サポートがあつて、今があるんです」と感謝を語る拓也さんでした。

長谷川 拓也 さん
宮内

不易流行(ふえきりゅうこう)
本質的なことを大切にしながら、新しく変化するものも取り入れていくこと



東京電力福島第一原子力発電所では、説明を聞きながら構内を視察。作業員の皆さんが利用する食堂で昼食をとりました。

バスの中でも和気あいあい。親睦を深め、今後の活動についても話し合いました。

6月22・23日、飯舘村婦人会(長谷川花子会長/前田)が、視察研修を実施。富岡町の廃炉資料館やいわき市の道の駅、川俣町山木屋でアンスリウムを栽培する花き農家などをバスでめぐり、復興の現状を視察しました。



身近な話題をお寄せください
☎0244-42-1613



いいたて村の道の駅までい館や村内コンビニなどで販売中。720mlで税込み1,296円。1,500本の限定販売です。

佐須地区で栽培された酒米「夢の香」を、喜多方市の大和川酒造で仕込んだ純米酒「復興」が発売に。「地区の再生の起爆剤にしたい」と菅野区長も期待します。秋には佐須のヒマワリ油も発売されるそうです。



「復興」を手にする菅野宗夫区長(右)。隣はスマート農業システムを酒米水田に導入するなどして酒造りに協力する東京大学の溝口勝教授。

7月13・15日、道の駅と交流センターで復興応援コンサートが開かれました。3度目の来県となるマリンバ奏者・石原有希子さんらのアンサンブルが多彩な曲目を演奏。素敵な音楽の時間をプレゼントしていただきました。



8/11日
いいたて夏祭り

いいたて村の道の駅までい館
午前10時から午後3時

元気いっぱいのステージショーや、かき氷の早食い大会、までい牛の振る舞いもありますよ〜! ご家族皆さんで、1日丸ごと楽しめます。無料の縁日コーナーや、抽選会もお楽しみに! ぜひご来場ください。

問 飯舘村商工会 ☎0244-26-7957

皆さんから募集します

来年度から義務教育学校が開校するのに伴い、現在の草野・飯樋・白石小学校と飯舘中学校は、今年度末に閉校します。そこで、これまでの歴史や大切な思い出を、1冊の記録誌として残すことになりました。卒業生やそのご家族からも、当時のエピソードを募ります。詳しくは同封の応募用紙をご覧ください。

何気ない思い出も貴重な記録に。どうぞ気軽にお寄せください。
※P11の関連記事もご覧ください

小学校、中学校の
思い出を教えてください

和気あいあいとした雰囲気の中で腕を競い合い、白熱のゲームが繰り広げられました。



7月20日、「第8回飯舘村老人クラブ連合会パークゴルフ大会兼第5回福島民報社杯」が福島市内で行われました。あいにくの雨模様を物ともせず、過去最高となる82人が出場し、プレーを楽しみました。

入札結果をお知らせします

入札日 / 5月23日(単位:円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
いいたてにぎわい夏祭りイベント業務	3,996,000円	飯館村商工会	令和元年11月下旬
農業集落排水管路工事(草野第1地区・草野1期②)	157,680,000円	荏原実業(株)東北営業所	令和2年3月下旬
ため池放射性汚染物質拡散防止対策工事(入山田・山田地区)	61,560,000円	滝建設工業(株)	令和2年3月下旬
農業用排水施設等補修工事(溜池補修)	24,624,000円	濱田建設工業(株)	令和元年12月下旬
深谷地区多目的交流広場整備工事	745,200,000円	関場建設(株)	令和2年3月下旬
飯館村役場庁舎改修工事	106,704,000円	庄司建設工業(株)	令和2年3月下旬
飯館村活性化施設(いちばん館)機能回復工事	94,824,000円	庄司建設工業(株)	令和2年3月下旬
飯館村活性化施設(いちばん館)機能回復工事監理業務	1,814,400円	(株)邑建築事務所	令和2年3月下旬
深谷地区多目的交流広場屋内運動施設建設工事監理業務	9,072,000円	(株)邑建築事務所	令和2年3月下旬
深谷地区多目的交流広場整備工事監理業務(土木)	4,201,200円	(一財)ふくしま市町村支援機構	令和2年3月下旬
深谷地区多目的交流広場整備工事監理補助業務(土木)	2,883,600円	(株)ヘッズ 東京本社	令和2年3月下旬
ため池放射性汚染物質拡散防止対策工事現場監理支援業務	3,726,000円	福島県土地改良事業団体連合会	令和2年3月下旬
農業水利施設等保全再生事業(飯館地区)ため池放射性物質対策調査測量設計業務	183,600,000円	福島県土地改良事業団体連合会	令和2年3月下旬
オリジナルデザイン年賀はがき広告	2,208,000円	(株)SAGA DESIGN SEEDS	令和元年8月下旬
移住定住パンフレット増刷	2,857,680円	(株)SAGA DESIGN SEEDS	令和元年6月下旬
移住定住PR用写真集作成	1,933,200円	(株)SAGA DESIGN SEEDS	令和2年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(伊丹沢字伊丹沢地内)	49,248,000円	(株)福建コンサルタント	令和2年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(飯樋字町地内)	19,008,000円	(株)東コンサルタント相双事業所	令和2年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(飯樋字前田地内外)	13,500,000円	NTCコンサルタント(株)東北支社	令和元年12月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(飯樋字大久保地内外)	6,588,000円	(株)福建コンサルタント	令和元年9月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(飯樋字西原地内外)	10,692,000円	(有)武藤測量事務所	令和元年12月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(前田字福田地内外)	3,078,000円	(株)船橋コンサルタント	令和元年9月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(深谷字市沢地内外)	14,040,000円	(有)御堂測量設計事務所	令和元年12月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事(水路除草等)(草野字赤坂地内外)	8,154,000円	濱田建設工業(株)	令和2年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事(水路除草等)(深谷字市沢地内外)	5,400,000円	濱田建設工業(株)	令和2年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事(水路除草等)(関沢字野沢地内外)	9,450,000円	(有)渡建工業	令和2年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事(水路除草等)(小宮字曲田地内外)	13,608,000円	(有)福相建設	令和2年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事(水路除草等)(佐須字前乗地内外)	7,884,000円	(一財)飯館村振興公社	令和2年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事(水路除草等)(草野字宮内地内外)	9,849,600円	(株)東栄	令和2年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事(水路除草等)(白石字菅田地内外)	5,767,200円	(株)英工務店	令和2年3月下旬
仮設住宅WiFi設備撤去業務	5,104,000円	(株)福島県中央計算センター	令和2年3月下旬
深谷復興拠点備品(深谷地区多目的交流広場設置備品)	16,500,000円	(有)アカデミヤ	令和2年3月下旬



いいたてプレミアム付商品券

お得な商品券で村を元気に!

7/1 販売開始セレモニー



セレモニーでは、商工会の菅野一廣会長が「約1年間村と打ち合わせを重ねて準備してきた事業。震災前の活気ある村に戻って行けるようまい進したい」とあいさつ。菅野村長は「商工会の協力に心から感謝します。多くの皆さんに使っていただき村の活性化にもつながれば」と期待を寄せました。

7月1日、「いいたてプレミアム付商品券」の販売がスタートしました。この商品券は、1冊1万円で、1万5千円分の買い物ができるもの。1000円分の商品券が15枚で1冊に綴られています。買えるものは、村内の取扱事業所となっている店舗やコンビニエンスストア、道の駅など約50の事業所で、今後は商品券が使える関連イベントなども開催される予定です。1人6冊まで購入することが可能で、販売及び使用期間は、令和2年の1月末日までとなっています。

※この商品券は限定販売で発行数に限りがあります。お求めの際は早めにお知らせください。

問 飯館村商工会
☎0244-26-7957

7月の村の動きと主なできごと

- 1日・いいたてプレミアム付商品券 販売開始セレモニー(飯館村商工会)
- 2日・橘慶一郎復興副大臣 村内視察(学校エリア)
- 4日・福島大学食農学類 現地視察(村内各所)
- 5日・第1回にぎわいづくり庁内検討委員会(村役場)
- 6日・「沖繩までの旅」第3回事前研修・結団式(交流センター「ふれ愛館」)
- 7日・八木沢・菅原行政区作付再開計画説明会(八木沢集会所)
- 8日・健康結果説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- 9日・健康結果説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- 10日・中学生向け認知症サポーター養成講座(飯館中学校)
- 11日・第2回行政区長会議(交流センター「ふれ愛館」)
- 12日・固定資産評価審査委員会(村役場)
- 13日・健康結果説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- 14日・義務教育学校開校に関する住民説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- 15日・「自分史」取材 出発式(ビレッジハウス)
- 16日・第2回義務教育学校開校準備委員会(ビレッジハウス)
- 17日・学校運営協議会(ビレッジハウス)
- 18日・「未来への翼」第2回事前研修(交流センター「ふれ愛館」)
- 19日・参議院議員選挙 投票日(村役場・子育て支援センター・交流センター「ふれ愛館」)
- 20日・参議院議員選挙 投票日(村役場・子育て支援センター・交流センター「ふれ愛館」)
- 21日・参議院議員選挙 投票日(村役場・子育て支援センター・交流センター「ふれ愛館」)
- 22日・第6回飯館村議会臨時会(村役場議場)
- 23日・第5回飯館村議会臨時会(村役場議場)
- 24日・第7回農業委員会定例会(村役場)
- 25日・定例教育委員会(村役場)
- 26日・花卉技術セミナー(宿泊体験館きこり)
- 27日・はやま湖花火大会(大倉地区・はやま湖畔)
- 28日・目黒リバーサイドフェスティバル出展(東京都目黒区)
- 29日・大倉地区臨時総会・作付け再開計画説明会(大倉集会所)
- 30日・令和2年度職員採用一次試験(福島大学)
- 31日・自主文化事業「和楽器とロックのふれあいコンサート」(交流センター「ふれ愛館」)
- 32日・プール一般開放(学校エリア屋内プール)
- 33日・総合教育会議(村役場)

未来のために怒ってくれて、ありがとう

こころの
ぽけっと

全国の子どもたちが綴った「ありがとう」の手紙...という本に出会いました。母への「生んでくれてありがとう」の他、東日本大震災にまつわるのから先生や祖父祖母への「ありがとう」までがまとめられていました。その中で、私は特に小学校4年生の女の子の「先生怒ってくれて、ありがとう」に、心が動かされました。

新学期を迎えて初めての掃除の時、河野先生から「掃除は遊びじゃないんだ。ちゃんとやれ」と怒られました。その時は何でそんなに怒るんだろうかと思っただけで、今なら分かる。先生は、みんなの未来のために怒ってくれたんだって。そのおかげで皆しっかり掃除も勉強もしているよ。

私は、先生みたいに怒る時は怒る。笑う時は笑うという人になりたい。私もそんな小学校の先生になれたらいいな...という「ありがとうの手紙」でした。

下段にお母さんからの「先生に怒られることを『自分たちの未来のために』と受け取れることが出来た娘に成長を感じました」というコメントがありました。

近頃、その人のためという事で、怒る人が少なくなってきたようです。嫌われないということや、それを「バワハラ」と取る人が増えているからでもありません。さらに、そのことを親に言って、親も子と同じ考え方というのもありそうです。怒られたことを「自分の未来のため」と考えた小学4年生に私たちは見習わなければならないなと思っただけです。人と人が「心でつながる」ということの大切さを改めて学ばせていただいた本に出会ったことが、私の「ありがとう」でした。

令和元年7月10日 飯館村長 菅野 典雄

トレーニング
ルーム

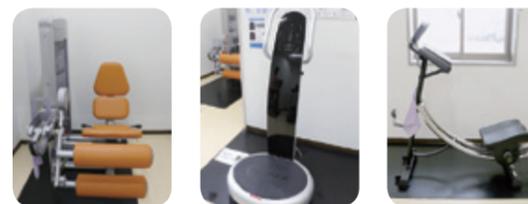
きてみて

飯館村伊丹沢字山田380番地
☎ 0244-42-0152
FAX 0244-42-1300

「いいたてスポーツ公園」にトレーニングルームが開設されました。利用を希望される方はお問い合わせを。利用にかかる説明を受け、登録してからの利用開始となります。

【時間】 平日の午前9時～午後8時
※夜間は当日の午後4時までに電話申し込みを。役場の当直からカギを借りて自主管理で利用ができます。
※土日祝日は利用不可です。

【料金】 9月30日まで無料。10月以降は有料。
料金については改めてお知らせします。



筋肉が落ちてしまわないよう週に2回は通いたいな

自分で自分の体を守り元気でいなくちゃね



上田和昌さんの

ラオス通信。

vol.3

ラオス料理に興味津々！(3)

しん しん

東京オリンピック・パラリンピック2020で村が「復興『ありがとう』ホストタウン」を務めるラオスってどんな国？上田さんのレポートで素朴な疑問に答えます。きっとラオスが身近になりますよ！

上田さんは山梨県の出身。ラオス国立大学で活動する青年海外協力隊の隊員です。



料理の話題をもう少し続けましょう。よく知られる「パイヤサラダ」は、パイヤの千切りとトマト、ピーナッツ、唐辛子、ニンニク、ライム、味の素、砂糖などを、石のすり鉢を使い、棒で叩くようにして混ぜ、味を馴染ませて作る料理です。ラオス人が作る「パイヤサラダ」は、舌が痛くなるほど辛いです。その辛さが病みつきになるそうです。

地方では、動物食、昆虫食も豊富です。動物食では、ウサギ、犬、リス、サル、カエルなどを食べる地域もあります。犬は、自分が暮らす首都ビエンチャンでも割と一般的に食べられています。昆虫食では、カブトムシ、セミ、バッタ、アリ、アリの卵などを食べます。カブトムシとアリは食べてみたのですが、カブトムシは海老の殻を揚げたような味でした。また、アリは酸味が強く、少し土の香りがしました。

また、個人的に一番衝撃的だったのは、アヒルの血を食べることです。これは地方に限らず食べられているもので、レモンを絞り入れ、ピーナッツや香草などを加えて食べます。最初は、勇気が出ず食べられなかったのですが、意を決して食べたところ血の味（鉄分）は気にならず、さっぱりした味でした。

勇気を出してアヒルの血を食べてみました



今回は「国旗から知るラオス」を紹介します！

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
遠藤 心都ちゃん	翼・志織	前田・八和木

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	出身地
大内 駿輔	佐須
嶋原 楓恋	長泥

いつまでもお幸せに

ひとのうごき

(令和元年6月30日現在)		6月1日～30日までの	
◆◆人口動態◆◆			
人口	今月(前月比)	転入	3人
男	2777人 (-7)	転出	19人
女	2790人 (-11)	出生	2人
備計	5567人 (-18)	死亡	4人
世帯数	1820戸 (-2)	(住民基本台帳人口)	

おくやみ

氏名	年齢	行政区
北原 キヨ子	83	宮内
高橋 保子	85	上飯樋
高橋 重良	59	比叢
村山 節子	95	深谷
小林 ナカ	90	前田・八和木
今野 ハナ	93	前田・八和木
高橋 オトミ	83	深谷
坂本 レン	95	小宮
高野 固	85	伊丹沢
佐藤 千代子	89	上飯樋

ご冥福をお祈り申し上げます

(6月21日から7月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

仲間がいるからできること

13区営農組合(上飯樋)



右から、今野秀美さん・細川強さん・佐藤年一さん・佐藤一巳さん・細川幹男さん・星代四行さん・今野一男さん。現場では無線連絡を取り合い、連携して作業を進めるそう。

HOPES

ホープス セカンド
2nd

地区と共に、農地の再生に取り組む13区営農組合の皆さん。この秋の法人化に向けた準備を進めています。休耕農地をこれからどう活用していくかが、地区の大きな悩みでした。「このままでは荒れていってしまう。誰かがやらなければ」。区内の話し合いが続く中で、立ち上げられたのが、この組合でした。メンバーの皆さんは、「できることから」を合言葉に、農地の集約と再生に取り組み、用排水路の清掃にも汗を流しています。

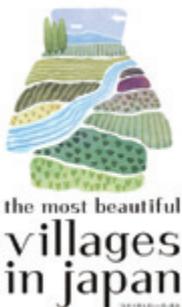
10年間の契約で区民から借りる約100ヘクタールの農地は、今後も広がる見込み。来年からは、牛の飼料用米、ホールクロップサイレージ(青刈稲)、牧草を栽培し、供給していく計画です。「地区や、農地を貸すことに賛成してくれた人達の気持ちを考えながら、事業を発展させていきたい」。法人に参加する7人の区民は全員が理事として役割を受け持ちます。

代表の細川強さんは、「この7人だからできている。俺じゃないんだよ」ときっぱり。「重機の資格も皆で取った。事業の後継者も育てたい」。緑肥として植えたヒマワリが集落を染めています。このヒマワリが農地にすき込まれたら、いよいよ新しい挑戦の始まりです。「夫婦同伴の旅行に、皆で行こう」と話している。農業で、かつての夢を、もう一度追いかけてみるよ」。

〈編集後記〉

●村には、多くの方々が視察研修に訪れています。震災からの復興やこれからの村について、知りたい、学びたいと足を運び、自分の目で見学んでいかれます。視察に来たあの方が帰り際に「飯館村は、前を向いて歩んでいるのですね。ひまわりのように」。ひまわりの花言葉は「あなただけをみつめる」。村内に咲く大輪のひまわりのように、しっかりと前を見つめていきたいものです。(木幡)

●村内では、アジサイも、とてもきれいに咲いています。雨の多い(と言うかちよっと多過ぎ)今年の梅雨が気に入ったのか、例年以上に花が付き、色も濃くて鮮やかな気がします。手入れをされている方々に感謝をしながら、毎日あちこちで車を停めて眺めています。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。